

平成22年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

平成22年4月1日～平成23年3月31日

平成23年9月

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

平成22年度 加西市教育委員会 主要施策

大項目	重点課題	小項目(実践目標)	担当課
新しい時代を切り拓くこころ豊かな人づくり	1 自立的に生きる力を培い、個性や能力・創造性を伸ばす教育の充実	1 知識基盤社会に対応する「確かな学力」を育む学習指導の充実を図る	学校教育課
		2 体験学習等を通して心に響く魅力ある道德教育を推進し、自尊感情や自立性を高め「豊かな心」を育成する	学校教育課
		3 自己実現と「共に生きる社会」の構築に向けて主体的に取り組む意欲や態度を育成する人権教育を推進する	学校教育課
		4 自己実現をめざした進路指導(キャリア教育)を推進する	学校教育課
		5 一人一人の教育的ニーズを把握した特別支援教育を推進する	学校教育課
		6 体育・スポーツ活動・食育をはじめとする健康教育を充実し、健やかな体づくりを推進する	学校教育課
		7 学校防災体制の充実を図るとともに、安全・防災教育を推進する	学校教育課
		8 児童生徒理解に基づく、心のふれあう生徒指導を推進する	学校教育課 青少年センター
		9 国際化・情報化・少子高齢化・環境問題など、今日的課題に対応した教育を推進する	学校教育課
		10 教職員としての資質と実践的指導力の向上を図るとともに、開かれた学校づくりを進め、地域や家庭に信頼される学校づくりを推進する	学校教育課
	2 安心・安全を基盤に捉えた教育環境の整備・充実	1 安全で安心して学べる学校づくりに向けて、教育施設の整備と教材備品等の充実を図る	教育総務課
	3 安全な給食の実施と食育の推進	1 安全な学校給食を提供するとともに、食育を推進する	教育総務課
	4 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の充実	1 発達や学びの連続性を踏まえ、幼児期にふさわしい教育の充実を図る	こども未来課
		2 発達の過程に即した「協同する経験」を通し、人とかかわる力を育成する	こども未来課
		3 円滑な就学につながる異校種間・家庭・地域との連携を図る	こども未来課
		4 健康な生活の基本「食を営む力」を育成する	こども未来課
		5 幼児教育に関わる職員の資質・専門性・協働性の向上を図る	こども未来課
	5 生涯学習と芸術・文化・スポーツの振興	1 生涯学習体制の整備とボランティア活動の推進を図る	自己実現サポート課
		2 地域住民が主体となる公民館活動と少子化高齢化に対する施策の充実を図る	自己実現サポート課
		3 市民参加による芸術・文化の継承と振興を図る	自己実現サポート課
		4 地域コミュニティづくりにつながる生涯スポーツの振興を図る	自己実現サポート課
	6 豊かな歴史・文化遺産の保存と活用	1 ふるさと加西の文化財の保存と活用を進める	自己実現サポート課
	7 新しい時代を拓く教育委員会として機能の充実と新たな課題に対応した施策の実施	1 実効的な会議の運営と活動状況等の情報発信の推進	教育総務課
		2 加西市教育の改革・改善に向けた課題認識を深め、執行機関としての機能の充実	教育総務課

重点課題	1	自立的に生きる力を培い、個性や能力・創造性を伸ばす教育の充実
------	---	--------------------------------

小項目	1	知識基盤社会に対応する「確かな学力」を育む学習指導の充実を図る
事業内容・計画・対象者等		<p>適切な教育課程の編成と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領への移行期における教育課程の指導助言の充実と承認 基礎・基本の定着を図る指導方法の工夫、改善 ・校内研究、研修への指導助言の充実 ・県スーパーティーチャー派遣事業の推進 ・全国学力・学習状況調査の実施と分析及び公表 ・学力向上委員会の立ち上げ ・学習タイムの促進 ・市教育研修所自主研修講座の推進 体験的・問題解決的学習と言語活動の充実 ・校内研究、研修への指導助言の充実 ・「朝の読書」「本の読み聞かせ」の推進 ・学校図書の実用と活用 ・理科支援員の配置や特別講師の招聘による理科の活性化 ・理科・算数備品の充実 個に応じたきめ細かな指導の推進 ・新学習システム教員の活用による少人数指導や複数指導の推進 ・兵庫型教科担任制の推進 ・スクールアシスタントやヤングアドバイザーの配置による個に応じた指導の充実
成果・課題・改善策等		<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務担当者会及び各教科担当者会に同席し、国・県・市の方針を説明し、適切な教育課程の実施に向け確実な指導助言を行った。 ・各校校内研修及び市指定研究発表会に向けた適切な指導助言を行い成功裏に導き、児童の学力の向上及び心身共の高まりが認証できた。 ・県スーパーティーチャー派遣事業の推進については県重要事業にもなっており、市内小学校において小・中6度の実施により授業力の向上をみた。 ・学習タイムの設定については、すべての学校において23年度に県が整備を求める週4回の実施を行っており、朝読・音読・視写・対話等の内容で推進を行っている。 ・言語活動の充実を目指し、市内北条小・泉小・北条中において研究を指定し、指導助言を行いながら研究発表会を開催し、教師と児童生徒の学習指導での絆を深めさせた。 ・臨時交付金における小・中・特の図書購入金額は、3182千円であり、充実した。 ・備品購入配当による理科備品整備率は、小中で24.4%、算数備品整備率は、小中で25.9%で高い整備率である。 ・県推進事業「兵庫型教科担任制」の実施は、県実施目標30%に対し、同率程度の3校実施であった。 ・個に応じた指導の充実を図るためのスクールアシスタント及びヤングアドバイザーの配置は、全小中学校に配備し、小学校3780時間・中学校2300時間である。 <p>課題・改善策</p>

	・臨時交付金により図書の蔵書は増えたが各校においては各ジャンルにおける蔵書数が児童生徒の興味関心の対象から鑑みればまだまだ不足をきたしている。今後も継続的な予算措置が必要である。		
担当課	学校教育課	自己評価	達成

小項目	2	体験学習等を通して心に響く魅力ある道德教育を推進し、自尊感情や自立性を高め「豊かな心」を育成する	
事業内容・計画・対象者等	<p>豊かな心を育成する道德教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道德教育全体計画と年間カリキュラムの調査・点検 ・道德教育推進教師の研修の充実 ・市指定研究校を中心とした指導助言の充実 ・心に響く魅力的な教材の開発 <p>体験的・実践的活動による「豊かな心」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境体験事業の実施 ・自然学校の推進 ・「トライやる・ウィーク」の推進 ・ボランティア活動・福祉体験活動の促進 		
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道德教育全体計画と年間カリキュラムの調査・点検は100%実績である。 ・5月29日、10月7日の両日全県研修に100%参加である。 ・北条小は、文部科学省の委託を受け道徳的実践力を豊かな体験の中で育むべく研究を深めた。指導助言も適切に行い、結果、地域教材の開発にも傾注できた。 ・環境体験事業は全小学校で実施し、事業内訳は、里山林2・稲作3・自然環境1・ため池1・農業4のフィールド体験を行い、豊かな心の醸成を推進できた。 ・自然学校は、6グループに分けて実施し、南但馬自然学校5グループ・嬉野生涯教育センター1グループである。 ・「トライやる・ウィーク」の推進においては、実習事業所の理解度も年々高まり、生徒の希望に沿う事業が展開できた。 ・児童生徒の主体的な意欲も高まっており、ボランティア活動・福祉体験活動も年々充実をしている。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、人、地元企業と密接な良好な関係を持ちつつ継続的に推進していく。 		
担当課	学校教育課	自己評価	達成

小項目	3	自己実現と「共に生きる社会」の構築に向けて主体的に取り組む意欲や態度を育成する人権教育を推進する	
事業内容・計画・対象者等	<p>教育活動全体を通じた人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体計画と年間カリキュラムの調査・点検 ・体験的な活動や複数指導などの指導方法の工夫・改善 ・人権感覚を磨くための教職員研修の実施 <p>共生社会の構築に向けた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生に関わる交流や体験活動の充実 ・子ども多文化共生サポーター派遣による外国人児童生徒の支援 ・関連部署との連携 		

成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体計画と年間カリキュラムの調査・点検は100%実績である。 ・少人数加配教員等を活用して指導方法を日常的に工夫・改善を行っている。 ・5月21日全県研修を受けて6月21日に市内担当者会を招集し人権教育研修を行った。 ・外国語活動を5・6年生で充実させ、ALT・外国語講師を有効的に活用できた。 ・ポルトガル語2校・ベトナム語1校・スペイン語2校のサポーターの配置を行い、年間26日～32日間を実績として多文化共生社会の実現を図ることができた。 ・ダイバーシティ課及び研修所、人権擁護委員会との連携も深め、児童生徒への支援も確実に行った。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も関係諸機関と連携を深めながら継続的に推進を図っていく。 		
担当課	学校教育課	自己評価	達成

小項目	4	自己実現をめざした進路指導(キャリア教育)を推進する	
事業内容・計画・対象者等	<p>勤労観・職業観の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画の調査・点検 ・体験活動の充実 ・指導体制の充実 ・進路指導に係る情報提供の充実 ・進路相談・教育相談の充実 		
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライやるウィークの体験活動を通して実施前の職業調べ、豊かな人との関わりの体験、実施後の各事業所のまとめを通してより鮮明な職業選択意欲と積極的な勤労意欲を養うことができた。 ・3年間の系統立てた指導の積み重ねと実施後の事業所との意見交流を通しての改善による成果が年々生徒を通して豊かな体験の充実が確認できる。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、人、地元企業と密接な良好な関係を持ちつつ継続的に推進していく。 		
担当課	学校教育課	自己評価	達成

小項目	5	一人一人の教育的ニーズを把握した特別支援教育を推進する	
事業内容・計画・対象者等	<p>支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画・指導計画の作成と活用 ・コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実 ・コーディネーター会議・ネットワーク会議の充実 ・関係機関との連携 特別支援学校のセンター的機能の充実 ・教育相談の充実 ・指導力向上のための教職員研修の充実 個に応じた特別支援教育の充実 ・スクールアシスタントの配置による個に応じた指導 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのサポーターによる発達支援プログラムの作成支援 ・学びのサポーターや言語聴覚士による教育相談の充実 ・就学指導委員会の充実 		
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画整備は100%の実績である。個別支援計画作成支援は、特別支援学校にセンター的役割を担わせ、作成の助言を行っている。 ・コーディネーター会議・ネットワーク会議の開催においては、幼・小・中の連携を深め、継続させることをねらい、年間2回のネットワーク協議会を開催し連携を強化させた。 ・各研修講座を案内して参加者も多かった。あわせて各学校では年間計画に則り研修の啓発の場も設けさせた。 ・市費により、スクールアシスタントの全校配置で個に応じた指導の徹底を図ることができた。 ・発達支援プログラムにおいては、他市には例をみない親子参加型とし、さらには、兵庫教育大学との連携も強化している。 ・週2回の発達相談、週1回の教育相談を設定し教育相談は、2人による親子別の相談が可能である。 ・校内委員会の充実を図るべく2人の学校生活支援員を活用し、巡回指導による各校コーディネーターのスキルアップも図っている。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細かな指導は、年々効果があがっている。今後さらに配置時間の増加をはかる予算を要求していく。 		
担当課	学校教育課	自己評価	達成

小項目	6	体育・スポーツ活動・食育をはじめとする健康教育を充実し、健やかな体づくりを推進する
事業内容・計画・対象者等	<p>体力・運動の力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力テストを踏まえた個に応じた指導 ・運動プログラムの活用と運動しやすい環境の整備 ・計画的な運動部活動の充実 <p>健康教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に基づく保健指導の充実 ・保護者や学校医等との連携による保健指導・保健管理 ・学校保健会の活動の充実と学校医・学校歯科医・学校薬剤師との連携 ・健康診断の実施と事後措置の徹底 ・教育相談の充実 <p>食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育指導計画に基づく指導体制の充実 ・指導方法や教材の研究 ・家庭等への広報啓発活動 	
	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上をめざし、市内小中各1校(下里小・加西中)を体力作り指定校として運動プログラム2009を参考にした計画で実践できた。 ・各校において学校保健委員会を開催し児童生徒の健全な育成に向け、学校・PTA・学校医が連携を深めている。 	

成果・課題・改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・市においては、加西市学校保健委員会を年間6月と1月に開催し、医師・保健主事・養護教諭・PTA・幼稚園教諭に招集をかけ、6月総会・1月デートDVについて研修を深めた。 ・児童生徒の健康診断も確実に実施し、学校生活管理指導表に基づき適宜指導した。 ・食育指導計画の整備は100%である。 ・食育担当者会を開催し、食育に関する意見交流の場としても有益であった。また、北播磨地区食に関する研究会に参加をし、現場で広く啓発活動もさせた。 ・学校給食週間を設定し、地産地消にも取り組んだ。結果、九会小が学校給食表彰(兵庫県教育長表彰)を受賞した。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度同様推進を図っていく。
担当課	学校教育課
自己評価	概ね達成

小項目	7 学校防災体制の充実を図るとともに、安全・防災教育を推進する		
事業内容・計画・対象者等	<p>安全・防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・防災訓練及び教室(火災・地震・風水害・不審者対応)の実施 ・震災・学校支援チームによる防災教育の推進 <p>学校安全・防災体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全指導・安全管理の徹底 ・スクールガードリーダー・ワッショイスクール協力員・見守り隊による学校・通学路の安全確保 ・青少年センターや関係機関との連携強化による安全確保 ・関連部署との連携による防災体制の整備 		
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災・地震を想定した各校による避難訓練は速やかに確実に実施できた。 ・アース員2名も承認を受け、明日に生きるの副教材をもとに新たな防災教育の推進を行った。 ・地域を巻き込んだ計画を立案し、水害・地震を想定し、総合的な時間にワッショイスクール協力員及びゲストティーチャー、消防署員の協力をえて安全防災教育の推進を行った。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」としてスクールガードリーダーを配置し、市内11小学校・1特別支援学校を年間108日間巡回し、安全安心の学校作りを固めた。 ・青少年センターや関係機関との連携強化により児童生徒の安全が日々確保できた。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速やかに推進してできているが今後も関係団体との連携を強化して、尚一層充実を図っていく。 		
担当課	学校教育課		自己評価
達成			

小項目	8 児童生徒理解に基づく、心のふれあう生徒指導を推進する		
	<p>協力・協働の指導体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の充実 		

事業内容・計画・対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問(年間216回)による情報共有と指導助言の充実 ・生徒指導担当者会(年間6回)の開催 ・スクールカウンセラーや学校支援チーム(県所属の生徒指導支援員)との連携強化 関係機関・団体との連携 ・学校・警察・青少年センター連絡会(年間5回)を開催 ・児童生徒の非行や健全育成に関わる諸課題について、ケース会議を開催 ・社会福祉課、健全育成関係団体との定期的な情報交換(年間のべ24回) 不登校に対する指導の充実 ・不登校対応マニュアルの作成と不登校研究協議会の実施 ・教育研修所における各学校連絡会(関係校年間10回)の実施 ・不登校児童生徒の保護者を対象とした「親の会」(年間12回)の実施 			
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問を年間にのべ248回実施し、教職員との情報交換や児童生徒の実態把握を行った。このことにより、問題行動等について早期対応や学校への助言を行うことができた。 ・生徒指導担当者会(年間6回)を実施し、情報交換を行うとともに、問題行動の広域化、グループ化を防止するための対応について協議し、早期対応につなげることができた。 ・学校・警察・青少年センター連絡会を年間5回開催し、ネット被害についての研修や地域業者との連絡会を行うなど、充実した会議ができた。 ・家庭環境に起因する問題や不審者対応など、社会福祉課や加西警察署との情報交換を年間53回実施し、連携協力を図ることができた。 ・不登校については、対応マニュアルの作成や不登校研究協議会を開催するなど、未然防止に向けた取り組みを行ったが、小学校における不登校出現率が0.15%と過去10年間で最も低かったのに比べ、中学校は3.64%と最も高くなった。今後は、小中連携や関係機関との連携による取組を研究する必要がある。 ・不登校児童生徒の「親の会」(年間10回)の開催や関係学校の担任等との連絡会(関係校年間10回)を行い、連携を図ったが、不登校の解消につながっていない。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携を強化し、関係諸機関との連絡・協力を密にしながら支援体制を充実させる。 ・不登校については、減少に向けた対策に取り組む。 			
担当課	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">学校教育課・青少年センター</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">自己評価</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">達成</td> </tr> </table>	学校教育課・青少年センター	自己評価	達成
学校教育課・青少年センター	自己評価	達成		

小項目	<p style="text-align: center;">9</p> <p>国際化・情報化・少子高齢化・環境問題など、今日的課題に対応した教育を推進する</p>
事業内容・計画・対象者等	<p>国際理解・外国語活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校への外国語指導助手の配置と活用 ・多文化共生に関わる交流や体験活動の充実 <p>情報教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育計画の作成 ・学校・家庭・地域が連携した情報モラル教育の推進 <p>環境教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を通じた環境教育の推進 ・地域の特性を踏まえた環境教育の推進

成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JET(インタラック)と業務委託を結び、各中学校に1名のALTを配置し、英語教育の充実を図った。さらには、市直接雇用ALT講師を2名雇用し、小学校外国語活動の推進を図った。 ・国際理解教育の推進を図り、校内研修での研修課題としても取り組んだ。 ・総合的な学習の時間を利用して情報教育を推進させた。併せてインターネットにおける人権侵害についても指導させた。 ・オープンスクール実施に伴い親子で学習する場面を設定した学校も広報した。 ・環境教育は、他の教科との関連もはかり、ねらいをはっきりとさせた上で推進を図った。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5・6年生外国語活動の更なる充実と環境教育実践校の拡大を図る。
担当課	学校教育課

小項目	10 教職員としての資質と実践的指導力の向上を図るとともに、開かれた学校づくりを進め、地域や家庭に信頼される学校づくりを推進する
事業内容・計画・対象者等	<p>教職員の資質能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会指定の研究会の実施 ・校内研修充実のための指導・支援 ・小・中学校の教科等の研究・研修会の実施 ・市教育研修所における研修講座の充実 ・教職員研修(教育講演会)及び県教職経験者研修の実施 ・教職員のメンタルヘルスの保持・増進のための相談体制の充実 <p>開かれた学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校づくり応援事業による特色ある学校づくりの推進 ・学校だより・ホームページ等による情報提供の充実 ・オープンスクールの実施 ・ゲストティーチャーの招聘 ・学校評議員制度の活用 ・学校評価・学校関係者評価の実施と公表
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の指定を北条小と北条中に行い、泉小に国語科の指定をして、健やかな児童生徒の育成を行わせた。年間を通して適切な指導助言を行った。 ・富合小(国語科)・下里小(道徳)・加西中(教科)の中間発表会を実施し、本発表に向けた適切かつ新学習指導要領実施の目標を確認し、指導助言を行った。 ・教職員の資質・能力向上を図るために自主研修講座を開設し、県事業「教職員研究活性化事業」において国語科を研究するグループを推薦し、教育現場の活性化につなげた。 ・教育講演会を実施し広い視野がもてるよう研修を設定した。教職員経験者研修も県の方針に基づき実施した。 ・校長会・教頭会を通じ、教職員のメンタルヘルスの保持・増進にさらに努めるよう県要項を再確認する機会を複数回設定した。 ・特色ある学校づくり・地域に信頼される学校づくりのためにふるさと納税から学校づくり応援事業の予算措置をおこない、小学校200千円、中学校300千円を基準に有効的に執行できた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・情報担当者を窓口ホームページを年々充実させている。 ・オープンスクールの実施は、100%の実績であり、案内も参加者を意識して案内手段も工夫するよう助言も行った。 ・学校評議員制度・学校評価・学校関係者評価を大いに活用しながらPDCAサイクルで学校運営の改善を図っている。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校業務改善事業推進に伴う勤務時間の適正化に向けた取組を強化する。 		
担当課	学校教育課	自己評価	概ね達成

教育委員会のコメント	学校教育においては、授業の改善や研究など多くの取組に創意工夫が見られ、「概ね達成」と評価する。		
	しかしながら、不登校に関しては、その取組は認めるが解消に繋がっていないことから、家庭環境に起因する問題対策や、関係機関との連携のあり方など、「やや不十分」と評価せざるを得ない。		
	自己評価で「達成」とした項目においても、残された課題や更なる改善点を明確にすることが重要ある。		
	学校における組織マネジメントとして、学校や教職員の評価を適正に行うことが出来る術を検討する必要がある。		

評価委員会の評価	市独自のアシスタントやアドバイザーの配置、教科担任制の積極的な取り組みなどによるきめ細かな指導の充実、食育の充実した取り組み、ふるさと納税による学校づくり応援事業の予算措置など、重点課題1の教育の充実に向けた取り組みを着実に進めておられると判断できる。しかし、不登校生徒が中学校で増加したことに対する点検評価が不十分である。また項目において学力に関する目標が設定されていない点にも疑問がある。加西独自の他市に負けない特色と取組みを期待する。	評価結果	不十分
----------	--	------	-----

自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

重点課題	2	安心・安全を基盤に捉えた教育環境の整備・充実
------	---	------------------------

小項目	1	安全で安心して学べる学校づくりに向けて、教育施設の整備と教材備品等の充実を図る	
事業内容・計画・対象者等		<p> 囲障の整備 ・小中学校のフェンス改修工事 耐震化事業 ・北条中学校地震改築工事、賀茂小学校体育館耐震補強工事、泉中学校武道場耐震補強工事、善防中学校校舎棟耐震補強工事 ・富合・泉・九会小学校、泉中学校体育館耐震補強工事設計委託 ・木造校舎耐震診断・補強計画委託(宇仁・富田・西在田小学校) 備品整備 ・教材備品・管理備品の整備 </p>	
成果・課題・改善策等		<p> 成果 ・囲障の整備については、善防中学校フェンス改修97m、加西中学校防球ネット30m整備の予算を平成23年1月補正で確保。 ・耐震化事業については、平成22年度末で耐震化率が58%となり11.2%のアップとなった。 ・今後も毎年8～10%の率で耐震化を進め、平成27年度に耐震化100%を目標として工事を実施。 ・木造校舎については、耐震診断・補強計画結果を考慮し耐震化を推進。 ・備品整備については、教材備品・管理備品の整備実施。理科振興備品においては、中学校の充足率が3%、小学校は2%改善された。 </p> <p> 課題 ・耐震化事業について、平成27年度に完了するために、非木造校舎の耐震化・大規模改造、木造校舎の改築による耐震化を同時進行する必要がある。そのため、工事量と工事費が短期間に集中し財政的にも人的にも大きな負担となる。 ・安全対策について、随時改修を行っているが、老朽化したフェンスが多い。 ・備品整備について、毎年購入しているが、老朽化した備品が多い。 </p> <p> 改善策 ・耐震化事業については、事業量の平準化を行い完了年度を1年延長する。同一校で校舎・体育館等複数棟の工事がある時は、同時施工し事業費の軽減を図る。 ・安全対策については、老朽化の状況把握を行い、計画的に改修を行う。 ・備品整備については、理科振興備品の補助金を利用し整備を促進する。 </p>	
担当課		教育総務課	自己評価 概ね達成

教育委員会のコメント	<p>学校の基本として安心安全な教育環境の整備は必須であるが、限られた予算の枠内での努力を考慮すれば、その成果は評価できる。</p> <p>しかし、校舎の耐震化については最優先課題と思われるが、現在の進捗状況では耐震化100%となるまで5年を要するとなると、予算の確保を含めて更なる努力を必要とし、「やや不十分」と評価する。</p> <p>教材備品等の充実については、市長部局及び市議会の理解を得て、充実・改善しつつあるため、今後もその充実に努める。</p>		
------------	---	--	--

学校施設の改修についても、安心安全の観点から見れば、更なる予算確保の努力を必要とする。

評価委員会の 評価	実施内容には、軽重の差がある。特に耐震化は最重要であると思われるが、耐震化率の低さが気にかかる。限られた予算の中で大変だと思われるが、安全第一で選択と集中を視野にいれ、よりよい環境整備をお願いしたい。	評価結果	やや不十分
--------------	--	------	-------

自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

重点課題	3	安全な給食の実施と食育の推進
------	---	----------------

小項目	1 安全な学校給食を提供するとともに、食育を推進する		
事業内容・計画・対象者等	<p>学校給食の栄養管理、衛生管理に留意し、地産地消を通じて安心・安全な給食を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の地元産米を使った米 ・地元食材をできるだけ多く導入 ・食料の生産から消費にいたる過程までの理解 <p>生涯にわたり健康で充実した食生活が送れるように、学校だけでなく家庭・地域が連携し、食育を通して郷土愛を育て、児童生徒の健全な心と身体を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育指導 ・食に関する特別授業の実施 ・衛生管理体制の徹底で食中毒予防 ・衛生指導を通して意識を高める 		
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農協と協力し、加西産のキヌヒカリ100%を学校給食に使用 ・米粉パンも加西産のキヌヒカリを使用し、キヌヒカパンと称し提供 ・JAの愛菜館を通じて、地元食材を多く使用、又、神戸大学農場センターの梨・柿・キャベツ等を使用。 ・年1回、地元農家生産者が学校訪問し、小学3年生を中心に大根・白菜等の生産から給食に提供までの過程を説明。 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、栄養教諭による献立検討会、研修会を実施 ・親子料理教室・こども料理教室の実施 ・各校での野菜栽培、収穫、クッキングの体験実施 ・地元農家、神戸大学農場センターにて、食に関する体験活動の実施 ・情報発信で、毎月1回発行 ランチタイム加西と献立表を全生徒対象 ・情報発信で、毎月1回発行 ランチタイム加西をホームページに掲載 <p>課題・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農家より生産された食材の一括発注及び各調理場への搬送ルートの確保 		
担当課	教育総務課	自己評価	概ね達成

教育委員会のコメント	<p>学校給食に関しては、メニューの工夫、献立表の出来栄、地産地消の食材使用、生産から提供までの過程紹介など、様々な取組については評価できる。</p>		
	<p>しかしながら、加西市の長年の課題である中学校の完全給食については、未だ実施に至っていないため、教育委員会としては「やや不十分」と評価する。</p>		
	<p>完全給食を見据えた給食実施にあたっては、近隣市との広域的な施設整備等、今後の取組を多面的に検討することが重要である。</p>		
	<p>学校における食育だけではなく、家庭における食育の機能を充実させるため、その支援策を検討する必要がある。</p>		

--	--	--	--

<p>評価委員会の 評価</p>	<p>地産地消に取り組み、給食の食材の調達にユニークな取り組みや努力がうかがえる点が評価できる。業務用の米粉パン製造機を学校や給食センターに導入し、加西米の地産地消のさらなる促進を希望する。 評価の項目として、給食と食育は分けて考えたほうがよいのではないか。また安全な給食と給食の完全実施とも分けて考えたほうがよいと思われる。ご検討いただきたい。</p>	<p>評価結果</p>	<p>適切</p>
----------------------	---	-------------	-----------

自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

重点課題	4	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の充実
------	---	-----------------------

小項目	1 発達や学びの連続性を踏まえ、幼児期にふさわしい教育の充実を図る		
事業内容・計画・対象者等	育てたい力を身につける教育活動の充実 ・幼児が発達に必要な経験を着実に積み上げられるよう、幼児の育ちについての課題に対応した指導内容・方法の充実 計画的な環境の構成 ・幼児の主体性と教師の意図を絡み合わせ個々の発達を促す計画的な環境の構成 教師の役割の明確化 ・幼児の発達を理解し成長を促す役割		
成果・課題・改善策等	成果 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づく取組・・・公立幼稚園・保育所の各種研修会19回開催 ・幼児教育プログラム策定・・・幼児教育プログラム委員20名による策定会議 5回 ・公開保育と専門家による指導の取組・・・実践力を付け、専門性を高める公開保育・研究発表会の実施 公開保育12回 専門講師指導による研究発表 3回 課題 ・研修で得た事項の実践状況の把握 ・幼児教育プログラムに示した教育内容の検証 改善策 ・研修内容のデータベース化を進め、後日にも閲覧可能化を検討 ・研修事項の実践事例の情報を収集し関係者に発信		
担当課	こども未来課	自己評価	概ね達成

小項目	2 発達の過程に即した「協同する経験」を通し、人とかかわる力を育成する		
事業内容・計画・対象者等	発達の過程に即した協同する経験 ・言葉による伝え合い、話し合い、役割を協同する経験を重ねることの重視 集団生活に関する指導の充実 ・個を生かし、発達の時期に応じた集団づくりへの援助 教師の援助・環境の構成 ・幼児の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成するための活動の精選、新たな教材や遊びの提供		
成果・課題・改善策等	成果 ・教師の「協同する体験」にかかる理解向上・・・全園より実践例を持ち寄り研修 9回 教師の協同する経験を見取る確かな視点と幼児理解や意図的な援助力の向上 ・公開保育の定例化・・・全園で公開保育を実施しブロックごとの研修を実施 9回 ・各園内研究体制の構築・・・全園で実施 部会ごとの研究会 18回 課題 ・関連性や連続性をもった偏りのない多様な体験活動の実践 ・学びの芽生えから自覚的な学びへの接続 改善策		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にし、意図的・計画的な環境構成と援助 ・仲間との葛藤を個の育ちにつなげる教師力の向上 		
担当課	こども未来課	自己評価	概ね達成

小項目	3	円滑な就学につながる異校種間・家庭・地域との連携を図る		
事業内容・計画・対象者等	<p>小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮した教育内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の相互理解による連携・接続を図った教育課程・指導計画の改善 就学前スタートプログラム実施 ・幼児・児童・幼稚園小学校職員共に学びのある幼少交流の実践 地域の自然や人材や他の学級との関係を生かした保育の場の設定 ・人と人の出会いの場づくり・地域を知り地域の教育力を生かす取り組み 			
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保・幼・小の交流活動の実施 公立保育所・幼稚園、小学校職員の意見交換や合同研究の実施 幼小 9園実施 幼保7園実施 相互の教育への理解が深まる(互惠性)交流の実施 9園が年間8~10回実施 ・円滑な就学の推進 就学前スタートプログラムを兵庫教育大学大学院 松村京子教授の指導のもと公立幼保12園で実施 ・地域の関係機関との連携 まちづくり協議会、老人会、伝統保存会、茶道、絵本読み聞かせ、英語であそぼう、音楽等地域の教育力を生かした取り組みの実施 全幼・保が地域の特色を生かし実施 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びや経験を積み重ねる公私立保・幼・小連携の推進 ・就学前スタートプログラムの検証と私立園への実践の普及 <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公私立の校区別異校種間の連絡会や保育・授業参観を実施し相互理解を深め円滑な接続を図る ・私立園への就学前スタートプログラム実践検証を踏まえた取り組み指導 			
担当課	こども未来課	自己評価	概ね達成	

小項目	4	健康な生活の基本「食を営む力」を育成する		
事業内容・計画・対象者等	<p>保育、教育活動を通じた食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に関する体験活動の実施(栽培・収穫体験・クッキング保育) 人格形成、生活習慣の基盤づくり ・食育計画に基づいた発達、発育に応じた食育推進(食のたのしみ、感謝) 保護者への普及啓発、地域との連携 ・食育に関する情報提供(献立表・給食展示) 			
	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食研究会の実施・・・毎月1回 栄養士・調理員等による献立検討・研修会を実施 ・食育講座の実施・・・公私立幼保 全園で実施(国保健康課保健士・いずみ会連携) 			

成果・課題・改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の実施・・・全園での栽培・収穫・クッキング体験実施 ・食育(給食)だよりの発行・・・情報の発信 毎月1回発行 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の食に対する関心を高める ・専門的知識を有する人材の活用 <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携・協力して楽しみながら取り組める情報や機会を提供 		
担当課	こども未来課	自己評価	概ね達成

小項目	5	幼児教育に関わる職員の資質・専門性・協働性の向上を図る		
事業内容・計画・対象者等		<p>園内、園外研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験・役割に応じた研修の実施・公開保育や専門家の活用による実践力の強化 ・理論と実践を結びつけたカリキュラム <p>研修方法の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公私立合同研修・研修成果の共有 <p>職員が協力し合う活力ある園経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム保育の導入・幼児理解、保育の課題の明確化 		
成果・課題・改善策等		<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修計画の推進・・・公私立幼・保合同の研修会(講演会)を2回公開保育3回実施 公立職員はもとより私立園職員も積極的に参加し資質の向上を目指した ・各種研修会・担当者会開催実施 24回開催 ・市教育委員会研究指定・・・北条幼稚園「互惠性を中心とした幼小交流」保幼小職員参加 ・市保育所連盟公開保育指定・・・北条西保育所・北条南保育所 研究保育公開 ・チーム保育の実践・・・教職員全員での協力体制保育を実施 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な人間力の向上 ・今日的な課題に対応する柔軟性や専門性の更なる向上 <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長のリーダーシップと職員の共通理解と協力体制づくり ・自分を磨き、情熱をもって自らの資質向上に取り組む機会の充実 		
担当課	こども未来課	自己評価	概ね達成	

教育委員会のコメント	就学前教育の現場においては、厳しい職場環境のなか地域との連携、協力のもと、創意工夫を凝らした保育・教育が実施されており、「概ね達成」と評価する。
	しかしながら、各施設における職員配置の適正化や施設環境の向上については、保護者が安心して預けられるものとして課題が多くあり、「不十分」と評価する。
	子どもの発達を見通した教育のため、保・幼・小の連携として、教職員や子どもの異校種間交流の充実を図る必要がある。
	学童保育、休日保育、病後児保育など、子育て支援への取組については拡充傾向が窺えるため評価できるが、更なる充実を目指す。

<p>評価委員会の 評価</p>	<p>教員の研修、保・幼・小の交流活動に積極的に取り組んでいる点は評価できる。 家庭、地域と連携した取り組みを充実させてほしい。</p>	<p>評価結果</p>	<p>適切</p>
----------------------	--	-------------	-----------

自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

重点課題	5	生涯学習と芸術・文化・スポーツの振興
------	---	--------------------

小項目	1	生涯学習体制の整備とボランティア活動の推進を図る		
事業内容・計画・対象者等	<p>学校支援地域本部事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校全職員を対象にしたアンケートによる学校の要望の把握 ・アンケート結果を踏まえた学校支援活動の実施 ジュニアリーダーの養成並びに社会教育団体の自立に向けた支援 ・他団体との連携協力を含めたジュニアリーダー教室の実施 ・ジュニアリーダー教室経験者へのボランティアリーダーへの勧誘 ・社会教育団体による自主活動の推進 			
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア実人数5,463人、学校支援ボランティア延べ人数59,130人、学校支援ボランティア回数5,420回 ・ジュニアリーダー教室経験者のボランティアリーダーへの参加者数約10%増加 ・連合婦人会の『子育て支援』『地域ボランティア』等の自主的事業を展開 <p>青年連絡会では東日本大震災等の支援のため募金・物品支援など自主活動を取り組み実施。</p> <p>加西市子ども会育成連絡協議会活動の一環に体験ツアー等を組み入れた新規事業見直し等により、前年度比105名増加</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部事業における学習支援に対してのボランティアの充実 ・ボランティアリーダー参加者数の増加 ・不登校児童生徒の居場所としてのジュニアリーダー教室の位置づけ ・ジュニアリーダー教室における新しいプログラムの開発 			
担当課	自己実現サポート課		自己評価	概ね達成

小項目	2	地域住民が主体となる公民館活動と少子化高齢化に対する施策の充実を図る		
事業内容・計画・対象者等	<p>公民館登録グループによる社会貢献活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4公民館登録グループ合同研修会の開催 ・公民館登録グループの社会貢献活動調査の実施 <p>公民館主催講座の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題に対応した「転ばぬ先の杖講座」、「環境講座」の開設 ・男性の来館を目指した「がんばれ！おやじ講座」「囲碁・篆刻講座」の開設 ・加西初のニュースポーツ「スポーツ吹矢指導者養成講座」の開設 ・公民館登録グループが講師となった「再チャレンジ講座」「どきどきウィークエンド」の開設 <p>子育て学習センター事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からのボランティアの協力で三世代交流事業等を実施 			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会参加者数880人(一般含む) ・社会貢献活動意識調査を公民館登録団体150団体に実施(回答率73%)。74団体の活動意志を確認した 			

成果・課題・改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動及び講座情報の発信 市HP公民館情報へのアクセス数(12,389件 前年比約3.6倍増) ・公民館から地域スポーツとしてニュースポーツ指導者(23人)を養成し情報発信 ・講座受講者数(10,489人 前年比1,266人増) ・子育て学習センターへの登録おやこ数(378人、前年度比 39人) ・子育て学習センターの託児、事業共催等ボランティア数(435名) 課題・改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館利用者と公民館情報発信量の増。館稼働率の向上 ・市民の企画、運営による公民館講座等の実施 ・公民館で活動する団体ならびに個人による社会貢献活動の促進に伴う公民館方針を策定 		
担当課	自己実現サポート課	自己評価	概ね達成

小項目	3 市民参加による芸術・文化の継承と振興を図る		
事業内容・計画・対象者等	文化祭の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭開催を通して市民文化交流の促進、地域文化力の向上 ・文化連盟および同連盟傘下協会による企画調整と運営促進 文化団体の活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・各団体の活動に対して支援を行い、自律ある自主運営を図る ・東はりま文化団体連合会主催事業への自主的参加を推進 公民館まつり、さつき展、盆栽展、ふれあい伝統芸能フェスティバルの開催 ・公民館まつりを公民館と登録グループ連絡協議会で主催しグループの主体的な活動促進 ・さつき展等を開催し、市民が伝統文化に親しむ機会を創出 		
成果・課題・改善策等	成果 <ul style="list-style-type: none"> ・第44回文化祭の実施 参加者人数2,278人、来場者数3,864人。 ・さつき展・盆栽展・伝統芸能フェスティバルの来場者数各250人・912人・550人。 ・公民館での山野草講座、ミニ盆栽教室の実施や加西播州歌舞伎保存会(登録グループ)の活動が開始 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・若手人材の発掘と文化祭内容の見直し ・活動経費の確保 改善策等 <ul style="list-style-type: none"> ・文化連盟所属団体との情報共有化と改善策の検討。 ・所属会員日常活動の強化と若手発掘。 ・公、民間機関等が実施する助成事業を申請。 		
担当課	自己実現サポート課	自己評価	概ね達成

小項目	4 地域コミュニティづくりにつながる生涯スポーツの振興を図る		
	加西市民体育大会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通して、交流の輪と体力促進 加西ロマンの里ウォーキング・町親善ソフトボール大会の開催		

事業内容・計画・対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会主催事業の推進と連携 ・市民交流の場を提供し、体力づくりとスポーツ活動の促進 校区ふれあい活性化事業の推進 ・各町の社会教育推進員を中心に、小学校区単位の社会教育に係るコミュニティ活動促進 		
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加西市民体育大会 参加者人数:約3,100人 ・加西ロマンの里ウォーキング 参加申込み人数:350人(雨天中止) ・町親善ソフトボール大会 参加チーム32チーム(登録者人数547人) ・10校区中、9校区から補助金申請。スポーツ系の事業が多く、三世代ウォーキング、校区バレーボール大会、校区グランドゴルフ大会など、延べ参加者数1,949人。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天候に影響を受けやすく参加人数が安定しない。 ・各団体の自主事業として取組みを図っているが、行政への依存は大きい。 ・家庭、地域が子どもたちを守り育てようとする意識を継続的に醸成。中高生も参加できる行事内容の見直し。 <p>改善策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業共に、課題を体育協会等の各団体と共有し次回開催に向け進めていく。 ・各団体の自主性、自律性を尊重し組織強化を図る。 		
担当課	自己実現サポート課	自己評価	概ね達成

教育委員会のコメント	生涯学習関係事業においては、多様な世代を対象に工夫を凝らせた取組が行われており、特色ある充実したものと評価する。		
	若手人材の発掘や必要な資質の育成、また高齢化・固定化からの脱却など、ニーズに応じた取組を目指して課題もあるが、「概ね達成」と評価する。		
	学校支援ボランティアや校区ふれあい活性化事業など、多様な取組は評価に値するが、その成果や効率化について検証する必要がある。		
	ライフステージに応じたスポーツ機会の拡大と、地域スポーツ環境の整備に向けた取組を推進していくことも重要である。		

評価委員会の評価	<p>学校支援ボランティアの充実、公民館での講座や生涯学習やスポーツの事業の充実がうかがえる点が評価できる。ただマンネリ化している点もあるのではないかと。事業の見直しも検討していただきたい。継続事業と新規事業とを勘案して評価することも必要である。</p>	評価結果	概ね適切
----------	---	------	------

自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

重点課題	6	豊かな歴史・文化遺産の保存と活用
------	---	------------------

小項目	1	ふるさと加西の文化財の保存と活用を進める
事業内容・計画・対象者等	<p>鶉野飛行場関係歴史遺産基礎調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸大学との共同研究により第二次大戦時の戦争遺跡について基礎調査と成果発表 ・戦争遺跡の活用シンポジウム開催と報告書・ガイドブックの発刊 <p>地域伝統文化総合活性化事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史ガイドボランティア、神社ならびに氏子等地域住民との協働による歴史ガイド養成講座の開講(計8回 参加予定者160人)、屋台調査の実施。民俗文化財展示会の開催。文化財説明板設置。ガイドマップ作成と配布。 <p>玉丘史跡公園での文化財体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園指定管理者による市民対象の文化財体験講座を実施(予定延べ人数 約150人) <p>指定文化財の保存と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民対象に各種文化財出前講座の開催。未指定文化財調査の実施(古民家等の調査) <p>埋蔵文化財保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内及び市外の開発主体者を対象とした各種開発に係る事前調整の実施。発掘調査5件実施。分布調査ならびに埋蔵文化財発掘調査報告書作成と刊行。 	
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶉野飛行場関係歴史遺産活用シンポジウムを開催。保存と活用を討論。参加者130人。ガイドブック及び報告書作成。市内各所、県内・大学図書館等600箇所に配布しPR。 ・『北条節句祭活性化事業』語り部養成講座開催。参加者延べ120人。空家を利用し文化財展示場開設。文化財啓発看板15箇所に設置。ガイドマップ作成し市内外500箇所配布。 ・玉丘史跡公園文化財体験学習参加者延べ203人参加 ・文化財講座9回開催 小学生232人。古民家調査:1件 市指定文化財件数:3件。 ・個人住宅等建設に係る取扱い調整事務:120件、 市内遺跡分布調査実施 ・北条中・白龍保育園・国道等建設に係る発掘調査件数:6件 発掘調査報告書を市内・外関係諸機関等配布:380件 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財の整備を図り観光資源化ならびに環境整備 ・地域住民へ伝統や文化財愛護精神の醸成 ・事業財源の確保 <p>改善策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域伝統文化活性化事業等の各種助成を受け財源確保を図り、価値判断調査、伝承者養成ならびに文化財活用手法を取り入れ観光資源化 ・積極的な広報活動、施設のアピール、施設の利活用モデル(プラン)検討を所有者・地域住民協働で検討 ・未指定文化財を条例改正等で地域文化財として位置づける法的整備 	
担当課	自己実現サポート課	自己評価 概ね達成

教育委員会の コメント	歴史ガイド養成講座、鶉野飛行場関係シンポジウム、地域文化財の発掘など、歴史文化遺産活用指針の策定に基づく取組に成果がみられ「概ね達成」と評価する。
	今後、文化遺産の整備や、まちづくりに活かした観光資源化とPR、市内外の人々に文化財への関心と意識を高めてもらうなどの取組の推進に努める。
	子どもたちへ、地域文化に関する情報や調査結果を授業等で活用し、また文化財講座等の講習や資料提供の取組の充実を図る。

評価委員会の 評価	歴史・文化遺産の保存と活用の取組は、充実していると評価できる。 加西版「歴女」「歴男」の認定講座を行うなどふるさと加西を深める活動を検討したかどうか。継続事業と新規事業を勘案して評価することも必要である。	評価結果	概ね適切
--------------	---	------	------

自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

重点課題	7	新しい時代を拓く教育委員会として機能の充実と新たな課題に対応した施策の実施
------	---	---------------------------------------

小項目	1	実効的な会議の運営と活動状況等の情報発信の推進		
事業内容・計画・対象者等	<p>教育委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会及び臨時会の開催と移動教育委員会の開催 ・会議の案内と傍聴の啓発 <p>教育委員会における会議録の公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例教育委員会の議事録をホームページで公開 ・教育振興基本計画審議会の審議経過と議事録をホームページで公開 <p>教育委員会情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度教育行政方針 ・平成21年度事務の点検評価報告書 ・教育委員の活動状況 ・イベントやくらしの情報 			
成果・課題・改善策等	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年には12回の定例委員会と8回の臨時委員会を開催し、定例会のうち1回は移動教育委員会として開催 ・定例会の開催案内については、ホームページの他、新たに市広報で案内 ・定例教育委員会の議事録、教育振興基本計画(審議経過含む)、教育行政方針などを積極的にホームページに公開 ・ホームページに「教育の窓」としたページを設け、教育委員会ニュース「元気やねんかさい」など、教育長からの情報発信を開始 <p>課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例委員会における傍聴者数が、近年ほぼ横ばいであるため、会場選定、広報活動、会議運営などについて検討 ・積極的な情報発信とホームページの限界を埋める術の検討 ・情報公開制度の目的に沿う、積極的な情報公開の行政運営 			
担当課	教育総務課		自己評価	概ね達成

小項目	2	加西市教育の改革・改善に向けた課題認識を深め、執行機関としての機能の充実		
事業内容・計画・対象者等	<p>教育委員による施設訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会所管施設の格差是正のための施設訪問 ・教育委員の計画訪問や研究発表会への参加 <p>教育関連予算への関与・参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員からの提案と題した討議機会の設定 ・教育委員による点検・評価の実施 ・定例教育委員会等における予算編成や補正への関与・参画 <p>教育委員の研修と情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会連合会などの研修への参加と情報収集 ・教育委員会関連行事への参加と自己研鑽 			
	成果			

<p>成果・課題・改善策等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・特別支援学校、幼保園、社会教育施設など、すべての所管施設について、格差是正の学校訪問を実施 ・教育委員からの提案、教育関係予算などについて、教育委員会において討議し、教育委員会点検評価では教育委員による自己評価を実施 ・兵庫県や播磨東地区の市町村教育委員会連合会の研修会等や新任教育委員研修などに参加(グループ討議や講演会) ・計画訪問など積極的な関係行事等への参加 課題と改善策 ・成果としての参加実績を活かし、課題認識を共有することにより、事務局と教育委員会の更なる機能充実を図る
<p>担当課</p>	<p style="text-align: center;">教育総務課</p>
<p>自己評価</p>	<p>達成</p>

<p>教育委員会のコメント</p>	<p>情報公開、ホームページや広報の活用など、情報発信への努力、また事務局の追認機関ではなく、積極的に活発な委員会への取組など、「概ね達成」と評価する。</p> <p>市民の関心はまだまだ低く、更なる充実を目指す努力は必要。教育委員会の真価が問われ、真摯な取組が求められるため、社会的責務に応える取組の充実を目指す。</p> <p>発信した情報が、より多くの市民に受け止められ、効果的にフィードバックされる仕組みづくりを検討する必要がある。</p> <p>教育委員会として長期的で自律的なビジョンを持つことが必要で、教育委員による市長や市長部局との交流や意見交換に努める。</p>
-------------------	--

<p>評価委員会の評価</p>	<p>情報発信については、確かにHPには載っているが、積極的に観てもらおうという作りではない。定例教育委員会の開催情報も非常に探しにくい。議事録は定例会しか公開しておらず、非常に消極的と言わざるを得ない。ホームページの一部不具合による問題は早急に対応すべきである。</p> <p>教育委員会提案の事業や内容があきらかでない。小項目2は、執行機関としての機能の充実という項目であるが、その計画が、教育委員による施設訪問、教育委員の教育関連予算への関与・参画、教育委員の研修と情報交換、となっており、教育委員に関する計画になっている。しかし執行機関としての役割は、むしろ事務局の問題ではないか。計画の設定に疑問がある。</p>	<p>評価結果</p>	<p>やや不十分</p>
-----------------	---	-------------	--------------

自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

総合コメント

今回初めて評価委員をさせて頂きましたが、何の為の評価か未だにはっきりと理解できません。法律で決まっているからすると言う理由のみであれば、意味がないと思われます。評価をする限りは、その評価を受けてフィードバックをし、それが次の施策・行動に生かされなければ意味がありません。そういう意味では、この評価委員会の活用方法を考える事こそが、新しい時代を開く教育委員会には重要なのではないのでしょうか。

我々民間人が評価するには、情報が不足すぎていますし、時間が足りません。民間有識者に本当に評価させるなら、複数回の会議や丁寧な趣旨説明が必用ですし、中間評価とか複数回の会議が必要ではないのでしょうか。又加西市教育行政の今後の大きな課題である、学校の統廃合や小中一貫教育について教育委員会の定例会の議事録の中では、議題に上っていないのは非常に遺憾です。

今回の評価は、教育委員会が計画された事業の執行が出来ているかどうかの評価になっており、その成果に関する目標も不十分な為、適切な評価が行えない。又過去の評価で指摘されている部分が反映されておらずこの評価委員会が有効に活用されているとは言い難い。又今回の自己評価で教育委員会としての評価判定がなされていないのは遺憾である。前述したように、この評価は計画に対する評価である為、その計画が妥当であったかの評価を誰が行うのか不明確である。この評価委員の任期が2年であるのであれば、この評価に対するフィードバックを必ず議会報告の後行われる事をお願いしたいです。

概ねの事業が当初目標に対して達成しておりますが、更なる高い目標や難易度の高い目標の設定と今までの継続事業の振り返りを行い、選択と集中が必要と感じます。また新しい事業展開は失敗を恐れず、まずやってみることが先決かと思えます。

教育委員会の事業を簡潔に、わかりやすく整理しようとしてされているのは伝わってきます。したがって、事業の概要を理解するのは容易でした。これまでの点検評価の経験が生かされていると思います。今後は、この点検評価をどのように活かしていくのかをよく検討され、それに応じたやり方を工夫していくことが必要であると思います。その意義は、一つは、市民や市長、議会にアピールする良い機会であるわけですから、何をアピールするのか、何を評価してもらいたいのか、戦略的に考えていくことが必要でしょう。もう一つは、教育委員会の取組として抜け落ちている点はないか、縦割りの行政の中で、重なりや無駄はないのか、内部的に議論をし、担当を超えて、横のつながりで、話をするよい機会ではないかと思われま。対外的、対内的な意義を考えて、この点検評価を活用するようにご検討いただきたい。

評価項目の設定については、継続事業と新規事業との違い、重点事項と通常事項との違いを踏まえ、それぞれに応じた点検評価が必要でしょう。あらゆる項目を同じように並べて、同じように点検評価するのは、適切ではないと思いますし、外部の評価もやりにくくなります。評価項目の設定も見直し、工夫していただきたい。

教育委員会の組織運営能力を高めることが、この点検評価のねらいであるはずですから、その観点から、この評価結果を少しでも活用していただけたら幸いです。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
京都教育大学 教授	竺沙 知章
兵庫教育大学 教授	日渡 円
保護者代表(H22年度連合PTA会長)	内藤 和之
加西商工会議所(副会頭)	濱本 泰秀